

公立幼稚園等の現状と課題について

1. 現状

市内公立幼稚園及びかに石こども園では、毎年入園児が減少しています。

年少・年中・年長の各学級とも少人数集団で、きめ細かな支援・指導ができている一方、集団での経験や育ちを維持するための環境の構成が難しくなっているのも事実であります。また、特別な支援が必要な幼児の割合も増えています。

	年少	年中	年長	令和5年度合計	入園予定	定員	入所率 R5	入所率 R1
渋川幼稚園	8名	7名	11名	26名	4名	95	27.4%	55.8%
こもち幼稚園	14名	23名	16名	53名	13名	175	30.3%	54.3%
赤城幼稚園	5名	8名	7名	20名	2名	75	26.7%	54.7%
北橋幼稚園	5名	7名	12名	24名	9名	135	17.8%	48.1%
かに石こども園	2名	6名	0名	8名	0名	25	32.0%	28.0%
合計	34名	51名	46名	131名	28名	505	25.9%	51.7%

令和5年12月現在

2. 幼稚園教育について

幼稚園教育要領によれば、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本としています。

上記のとおり、環境を通して教育することは幼児の生活を大切にすることです。それを踏まえ特に重視しなければならないこととして「幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること」「遊びを通しての総合的な指導が行われること」「一人一人の特性に応じた指導が行われること」の3点があげられています。これらを鑑みたとき、少人数の環境では、一人一人の個に応じた指導・支援は行いやすいと考えられるが、多くの課題も考えられます。

3. 課題

次のような課題があげられます。

- ★集団としての活動が制限され、特に同年齢での集団活動が十分できない。
- ★経験・活動の幅を広げる工夫をしても限界がある。
- ★活動が盛り上がりせず、継続しないことが多い。
- ★特定の間人間関係の中で過ごすことが多く、経験の幅が限られてしまう。
- ★協調性やコミュニケーション力等が育ちにくい。

4. まとめ

幼稚園では、遊びを大切にした教育を行っています。思い切り遊ぶことで、その後の学びの創造性が豊かになると考えられます。そして、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿があります。これは「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域をもとに、10個の具体的な視点から捉えて明確化したものです。

具体的には

- (1)健康な心と体
- (2)自立心
- (3)協同性
- (4)道徳性・規範意識の芽生え
- (5)社会生活との関わり
- (6)思考力の芽生え
- (7)自然との関わり・生命尊重
- (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- (9)言葉による伝え合い
- (10)豊かな感性と表現

幼稚園も小学校や中学校と同じく「学校」です。しかし、幼稚園では小学校以降の教育と異なり、教科書を使わず、「遊び」中心の活動を行っています。これらの遊びを充実させ、幼児期までに育ってほしい10の姿を考えたとき、同学年が数人程度の少人数では、十分な学びを行い、その学びが深まることが難し場合も考えられます。

今後の公立幼稚園の在り方について検討していくことが必要と考えます。